

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成 28 年度～令和 2 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（くまげ） 熊毛森林計画区 （鹿児島県）	事業実施主体	九州森林管理局 屋久島森林管理署
完了後経過年数	4 年	管理主体	屋久島森林管理署
事業の概要・目的	本事業は、九州本土の最南端の佐多岬から南東洋上約 43 km の海上に位置する種子島と、同じく佐多岬の南方 65 km に位置する屋久島からなっており、西之表市をはじめとする 1 市 3 町に所在する約 4 万 2 千 ha の国有林野を対象としている。 本計画区は、種子島では、大浦川、川脇川、屋久島では安房川、宮之浦川等の上流域に位置し、水源かん養保安林が約 88％に達し、下流域の水がめとして重要な役割を担っているほか、約 50％に当たる約 2 万 ha が屋久島国立公園に指定されているとともに、約 1 万 5 千 ha を屋久島森林生態系保護地域に設定している。また、平成 5 年 12 月には森林生態系保護地域を含む約 1 万 ha が「世界自然遺産地域」として登録され、原生的天然林の保存、希少野生動植物の保護、自然とのふれあいの場の提供といった屋久島国有林野の有する公益的機能の発揮への要請が高まってきている。 森林の現況は、人工林を主体とした育成林が約 9,000ha（育成単層林 約 8,800ha、育成複層林 約 200ha）、天然生林が約 31,300ha となっており、主な樹種として針葉樹ではスギ、ツガ類、広葉樹ではクヌギ、カシ類などで、林相別に分布をみると針葉樹林 約 9,400ha、針広混交林 約 14,800ha、広葉樹林 約 16,100ha となっている。このうち、人工林の齢級構成は、10 齢級をピークとし、主伐期とされる 10 齢級以上の割合は約 68％を占め、森林資源の本格的な利用期を迎えているため、木材の安定供給を見据えた路網整備や主伐後の確実な更新とその後の保育が必要となっている。 本事業は、本地区の森林の有する水源涵養機能、土壌保全機能、地球環境保全機能や保健レクリエーション機能などの公益的機能の持続的な発揮と併せ、木材の安定供給及び地域の活性化にも積極的に寄与するため、植栽や間伐等の森林整備を積極的に実施するとともに、森林整備の効率的な実施に必要な路網整備に取り組んだものである。 ・主な事業内容 森林整備 更新面積 27ha 保育面積 1,293ha		

	路網整備 開設延長 2.3km 改良延長 1.6km ・総事業費 1,178,702 千円（税抜き 1,086,274 千円）
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	令和7年度時点における費用便益分析結果は以下のとおりである。 総便益（B） 12,049,089 千円 総費用（C） 2,163,783 千円 分析結果（B/C） 5.57
② 事業効果の発現状況	本事業の実施を通じ、更新及び保育作業等の森林整備により地球温暖化防止や水源涵養、山地保全等の公益的機能の維持増進が図られた。 また、路網の開設・改良の実施により、森林整備施業箇所までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。
③ 事業により整備された施設の管理状況	本事業で整備した森林は、シカによる食害を防止するため防護柵等の被害対策に努めており、継続して適切な管理を行っている。また、本事業で整備した路網は定期的に点検し、必要に応じて補修等を実施している。
④ 事業実施による環境の変化	森林整備の実施により、重視すべき機能（水源涵養機能）の区分に応じた良好な森林が形成されつつある。 また、適切な路網整備により伐採から植栽・保育までの作業の効率性が高まり、作業コストの縮減、労働負担の軽減が図られるようになった。
⑤ 社会経済情勢の変化	本計画区内の林業就労者は減少傾向にあるため、鹿児島県では、雇用の安定化、高性能林業機械の導入による生産性の向上など新規林業就労者の確保に取り組んでいる。 また、人工林の半数以上が利用期を迎えており、この充実した森林資源を有効に活用しながら、木材の安定供給体制を構築するとともに、森林の有する公益的機能の持続的な発揮が図られるよう多様な森林の整備を効果的かつ効率的に推進することが求められている。
⑥ 今後の課題等	森林の有する公益的機能の持続的な発揮、木材の安定的供給を図るため、国土の保全、自然環境の保全等に十分配慮しつつ、引き続き森林整備及び路網整備を着実に実施していく必要がある。 事業実施にあたっては、「新しい林業」の実現に向けた取組等を踏まえ、効果的かつ効率的な実施に努め、伐採造林一貫作業システム、低密度植栽や下刈回数削減等の低コスト造林の定着に加え、UAV等の活用など新たな林業技術の導入を進めるとともに、トータルコストの縮減に繋がる技術開発や地域振興に寄与するため、国有林で実施している低コスト作業システムの技術情報の提供や意見交換を行いながら、民国が連携した森林整備に取り組む必要がある。

	地元の意見： (鹿児島県) 意見なし。 (西之表市) 意見なし。 (中種子町) な かつたね 意見なし。 (南種子町) みなみたね 意見なし。 (屋久島町) 意見なし。
森林管理局事業評価 技術検討会の意見	森林・林業情勢その他社会経済情勢の変化や地域の意向等を踏まえた森林整備事業を行うことにより、水源涵養や山地保全、木材生産等の森林の持つ多面的機能の維持増進が図られてきており、費用便益分析の結果からも事業の効果が発揮されていると認められる。
評価結果	・ 必要性： 水源涵養や山地保全、木材生産等の森林の持つ多面的機能の維持増進が図られてきており、本事業の実施は必要と認められる。 ・ 効率性： 路網整備においては、現地に即した路線選定を実施するとともに、森林整備においては、伐採造林一貫作業システム、低密度植栽や下刈回数の削減の導入により低コスト化への取組が進められており、費用便益分析の結果からも十分な効率性が認められる。 ・ 有効性： 森林計画に即した森林整備の実施により、森林の有する公益的機能が持続的に発揮され、また、整備した路網を活用した木材の安定供給が図られており、引き続きその効果が発揮されるものと見込まれるため、有効な事業と認められる。

様式1

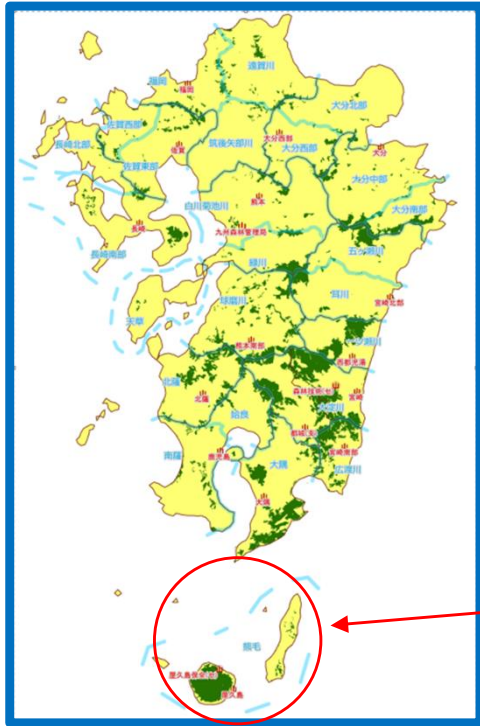
便 益 集 計 表
(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林) 都道府県名：鹿児島県
施行箇所：熊毛森林計画区(屋久島森林管理署) (単位:千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	3,331,862	
	流域貯水便益	1,007,582	
	水質浄化便益	4,240,457	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,043,528	
環境保全便益	炭素固定便益	544,636	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	19,937	
	木材利用増進便益	10,592	
	木材生産確保・増進便益	439,351	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	411,144	
総 便 益 (B)		12,049,089	
総 費 用 (C)		2,163,783	
費用便益比	$B \div C = \frac{12,049,089}{2,163,783} = 5.57$		

令和7年度 林野公共事業評価 (森林環境保全整備事業)

「令和7年度 完了後評価実施計画区」位置図



熊毛森林計画区 (屋久島森林管理署管内)



森林整備

伐倒



間伐後



路網整備

コンクリート舗装



路網改良

